

# 士別市地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

## 概要

- 農村地域を運行する路線では、急速な少子高齢化・過疎化の進展により利用者が大幅に減少するなかで、効率的で利便性が高く持続可能な公共交通となるよう運行体制の見直しが求められている。
- 特に武徳地域は、限定された狭いエリアの利用者のみが対象とならざるを得ない経路となっており、複数の経路をもって、地域内を広範囲にカバーするためには、一定の効率化を図る必要がある。

## 士別市生活交通ネットワーク計画の目標・効果

- デマンド化による一定のコスト削減を図る中で、持続可能な運行体制を確立する。
  - 地域内を広範囲にカバーし、ネットワークのよい運行体制を確立する。
  - スムーズな予約受け付け体制やホスピタリティの向上など、利用促進のための環境づくりを進める。
  - 通学での固定化した利用者のみならず、通院や買物等での高齢者の利用促進を図る。
  - 武徳小学校の閉校に伴う通学利用の増加に対応するとともに、安全で快適な運行をめざし適宜見直しを行う。
- 運行サービス向上による利用促進→3人/便 高齢者利用促進→20人/月
- 現在地域内には2台の福祉タクシー車両が存在するが、地域内の福祉タクシー車両を今年度中に3台まで増加させる。

## 平成25年度事業概要

- 士別駅-武徳12号間をデマンド運行
- リフト付きタクシー車両の導入

## 地域公共交通の現況

- ・JR宗谷本線(士別駅)
- ・道北バス(株)(市内1路線)
- ・士別軌道(株)(市内12路線)
- ・スクールバス(3路線)

## 士別市地域公共交通活性化協議会開催状況

平成24年6月25日 H24第1回協議会を開催

- (1)地域内フィーダー系統確保維持計画
- (2)地域公共交通バリア解消促進等事業
- (3)敬老バス乗車証交付事業
- (4)朝日コミュニティーバス
- (5)小中学生等に対する助成について

平成24年12月18日 H24第2回協議会を開催

- (1)中多寄線の運行について
- (2)武徳線の運行について
- (3)市内循環線の見直しについて
- (4)敬老バスおよび朝日コミュニティーバスについて
- (5)小中学生等に対する助成について

# 平成25年度事業の実施状況

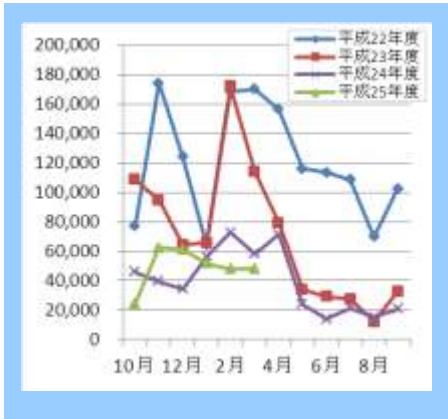
## 1) プロセス、創意工夫

- デマンド運行により、一定のコスト削減を図る。
- 電話予約に応じて、地域内を広範囲にカバーして運行する。
- デマンド化した温根別北線と車両を交換し、武徳小閉校に伴う通学利用に対応。
- 土別小学校周辺の運行経路を見直し、1カ所にバス停を集約することで交通安全に配慮。
- 台数を増やしたことで、利便性が向上。

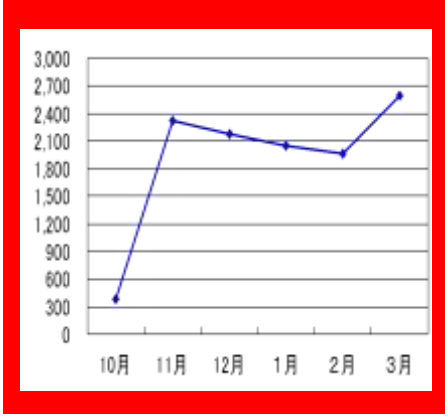
## 2) 運行ルート



## 3) 運行実績 (単位: km)

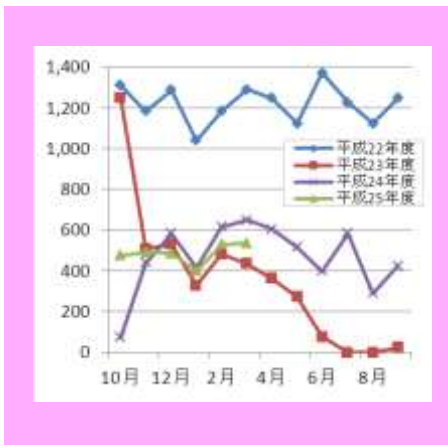


地域内フィーダー系統

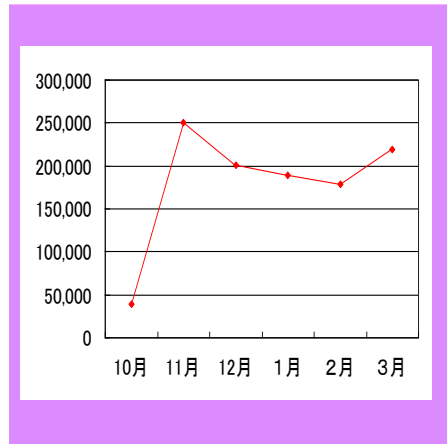


バリアフリー化設備等整備事業

## 4) 収入実績 (単位: 円)



地域内フィーダー系統



バリアフリー化設備等整備事業

## 5) 事業実施の適切性

計画どおり事業は適切に実施された。

## 6) 目標・効果達成状況

昼の便の運行により通院目的の高齢利用者が目標20人/月に対し38.2人に増加し、武徳線全体の乗車率も目標3人/便に対し現状で3.0人であり目標達成が期待できる状況にある。

武徳小学校の閉校に伴う通学対応について、武徳自治会・老人クラブ・小中学生保護者との懇談会を開催し、新たにスクールバス等を運行するのではなく、既存の武徳線の増便や時刻表変更等により対応することとなった。

これまでの1日3便の運行から、小学生の下校時間に合わせて1便増便し、4月から4便体制に変更するとともに、交通安全に配慮した運行経路に一部変更して運行する。

地域内に1台のリフト付きタクシー車両を導入したことで、目標としていた福祉車両数3台を達成し、高齢者・障がい者等の移動の円滑化・利便性向上を図った。

## 7) 事業の今後の改善点

概ね計画どおりの改善が図られ、目標達成に近い運行体制を構築しつつあるが、武徳小学校の閉校に伴って4月から見直した運行内容について、利用状況等を把握するとともに、地域との意見交換を行うなかで、利用者のニーズに合った運行のあり方について、総合的に検討していく必要がある。

計画どおり適切に実施されたことから、利用者の移動の円滑化と利便性の向上に向けて、引き続き取組を進める。

## 8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・昨年同様目標達成の見込みであり、自己評価のとおり、適切に事業が実施されている。
- ・また、高齢利用者が目標のほぼ2倍になっているのは、台数増加等移動円滑化策及び利便性向上策の現れであると評価出来る。
- ・現状の実績を踏まえた目標値の設定とその達成に向けた積極的な取り組みを期待する。